

# にしのおいけ

社会福祉法人 平成会

西の池学園

住所 東広島市高屋町小谷 5001-5  
 TEL (082) 434-0405  
 FAX (082) 434-5599  
 Mail [heiseikai@nishinoike.or.jp](mailto:heiseikai@nishinoike.or.jp)  
 H P <http://www.nishinoike.or.jp/>  
 編集 西の池学園 広報委員  
 発行者 西の池学園長 赤坂 秀則

第 72 号

(平成 27 年 4 月 1 日)



食後のひと時～グループホーム「第二花はな」にて～



こびとのちっちゃなおうち  
100円



あおぞらぱん屋さん

『こびとのちっちゃなおうち』は、ぱくっと気軽に食べていただけるミニケーキです！

こんもりしたケーキ生地にチョコレートとナッツがのっています♪見た目は可愛く、まるでこびとのおうちのように。「ほんのりした甘さに癒されてほしい」そんな思いを込めて作っています。

ほっと一息、午後のおやつにいかがですか？

あおぞらぱん屋さん 住田 美由紀

あおぞらぱん屋さん  
大感謝祭

日時: 5月30日(土)  
9:00~

お誘い合わせの上  
是非お越しください！

ぱん屋さんで一番人気の絹生食ぱん！生地がきめ細かく、噛みしめると口の中いっぱい小麦の香ばしい風味が広がります。「耳までおいしんよ！」「この食パンは飽きんよ」と嬉しい言葉とともに、沢山のお客様にご購入頂いております。

製造数を増やしていますが、品切れの時もあり、誠に申し訳ありません。前日までにご予約頂ければ必ずお渡しいたします。

お客様に笑顔で帰っていただける様、心を込めて焼き上げていますので、今後よろしくお願いたします。

(電話番号 082-490-3033)

あおぞらぱん屋さん 武田 洋美



## 多機能型事業所あさひ

「わかるは、わかる」

～目的に応じた作業提供の試み～

開所時から行っている作業の1つに「貝通し作業」があります。貝通しとは、カキ養殖作業の1工程で、半分に折っている針金の片方ずつに、帆立貝とゴムの管を交互に通していく作業です。

この作業は作業工程がわかりやすく、多くの方が参加できる特徴を備えています。開始から一年半が過ぎ、作業しているみなさんから、この作業に対する「思い」を多く伺うようになりました。「おしゃべりのない、静かなところで作業がしたい」「みんなと一緒に作業がしたい」「一人で集中してやりたい」など、1つの作業でも様々な「思い」を持って作業に臨まれているのだなと感じました。そこで、全ての思いを汲むことはできませんが、目的によって分けた3つの部屋を準備しました。

- ① 職員や他の参加者とのコミュニケーションを重視しながら、自分のペースで作業に取り組み部屋
- ② 就職を目指す、集中して作業に取り組み部屋
- ③ 職員の介入を極力少なくして、自分でスケジュールを組み立て作業する部屋



貝通し作業の様子

作業される皆さんも、いろいろな「思い」「目的」を持たれて行動されていることと思います。それらは潜在的な部分が多く、見極めることが容易ではないかもしれませんが、今回の「わかる」ことが、皆さんの「思い」「目的」が「わかる」ことに繋がるきっかけになれば、と思っています。

多機能型事業所あさひ 岩岡智子

## 住まいの場について思うこと

障害福祉の領域では、入所施設での生活からグループホームやアパート等を住まいの場として、地域に生活の場を移していくこと(地域生活移行)が目標として掲げられています。東広島市をはじめ各自治体で策定される第4期障害福祉計画(平成27年度～29年度)には、入所施設定員を更に削減するための数値目標も明記されています。また、小規模入所施設のあり方や重装備のグループホームも具体的に検討されているという状況です。とはいえ、入所施設は、地域で様々な課題を抱える人たちのセーフティネットとして、或いは、高齢化、重度化、親亡き後という課題への対応といった極めて重要な役割を担い、ニーズも底堅いのが現状です。

こうした中で、西の池学園では定員を無理なく時間をかけて減らす一方、今年度は2カ所のグループホームを開設します。4月から白市駅前へ新居移転、7月には竹原市内に1カ所オープンする予定で工事を進めています。このグループホームには、次のステップを目指す仕組みとして、自炊もできるようにワンルームマンションタイプの部屋を3室備えました。新しい試みですが、上手に活用し、本当の意味での自立を目指してほしいと願っています。

グループホームは、住まいの場として、当分の間増え続けると予測されます。障害福祉に携わる我々の役割の一つは、どこで誰と暮らすかを自分で決める権利をみんな平等に持っているということをおさえた上で、様々な形態の住まいの場を、選択肢として提供することだと考えています。目まぐるしく制度は変わりますが、共感的な視点でニーズに向き合い、やりたいことを悔いなくやり遂げるための後押しができるよう、今年度、更にグループホームの設置等新規事業の計画に取り掛かります。この計画が、利用者も地域も我々も、三方が良くなる仕組みに繋がればという気持ちで力を尽くしたいと思います。

西の池学園長 赤坂秀則